

<h1 style="font-size: 48px; margin: 0;">八枝</h1> <p style="margin: 0;">北九州市立八枝小学校 臨時号 文責 中蘭 茂樹</p>	<p>【学校教育目標】 思いやりの心を持ち、自ら学び考える、 心身ともに健康な児童の育成</p>
---	---

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1 教科に関する調査結果の概要

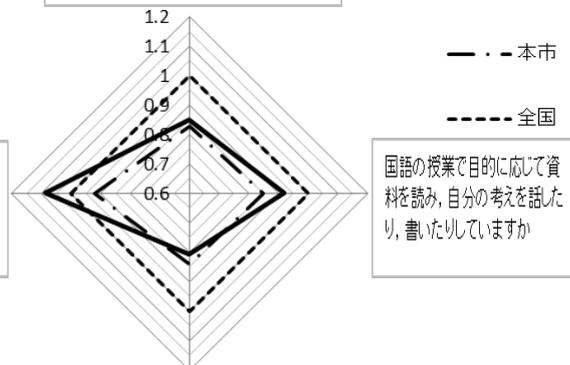
① 調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	全国平均正答率を下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、読むことは基礎ができていた。 ・言語についての知識・理解・技能に課題があり、日常的に国語辞典を使うことを習慣化する必要がある。
国語B	全国平均正答率を上回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率をやや上回ることができた。昨年度より無解答率が全国平均よりも高かった問題数が若干増えた。 ・文章の内容について、要点をまとめて、自分の考えを書く問題に課題がある。
算数A	全国平均正答率を上回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均を上回ることができた。基本的な内容の定着が図られつつある。 ・数量や図形についての知識・理解を今後更に高めていく必要がある。
算数B	全国平均正答率を上回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均を上回ることができた。応用問題に対しても、苦手意識を持たず、粘り強く取り組むようになってきた。 ・数量や図形についての技能が高くなり、応用できるようになった。

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

- ・発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していると答えている児童は、全国と比較してもその差が広がっている。今後は、授業で話の組み立て方を工夫して発表する機会を増やしていく。
- ・自分の考えを話したり、書いたりしている児童は、全国平均を下回っているが、年々その差は縮まってきている。自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりにふりかえりを短く書かせたりする活動を全校で位置づけている効果の表れだと考える。
- ・自分で考え、まとめ、発表することに抵抗感を感じている児童を減らすためには、探求的な学習である「総合的な学習の時間」の充実を図る必要がある。
- ・図書資料やPCを使った調べ学習は、全国平均を上回っており、グループ学習を積極的に行ってきた成果が出てきている。読書が好きな子も全国平均を上回っており、ブックヘルパー等の図書館教育の環境が整っている結果だと考える。

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる



国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか

国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか

※「当てはまる」「どちらか」と言いが当てはまる。」

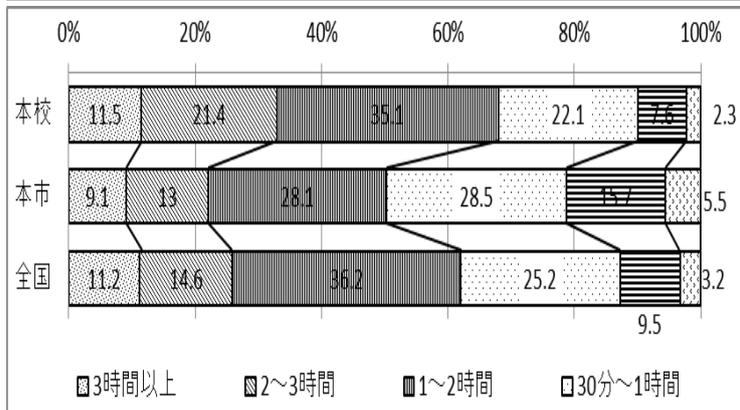
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

・家庭で平日・休日ともに1時間以上家庭学習をしている児童の割合は、全国平均を上回り、年々その割合は増えている。宿題や予習・復習をしている児童の割合も全国平均を上回っている。これは、家庭学習の重要性の啓発を行った結果、児童・保護者とその重要性を理解し、保護者の協力が得ることができ、家庭学習のスタンダード化が図られたためと考える。

・自分で計画して勉強している児童の割合は、全国よりやや下回るが、年々全国平均との差は縮まってきている。自主学習の仕方等、家庭学習の具体的取組を引き続き行う必要がある。

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



② 生活習慣等に関する調査結果の分析

・テレビ等の接触時間は年々減少している。しかし、インターネット等の接触時間は、逆に増えてきている。特に3時間以上の長時間の利用の割合は増えていた。児童や保護者へのネチケツ等、情報モラルの啓発が必要である。

・友達の前で自分の考えや意見を発表することを得意としていない児童の割合が全国平均より下回っている。コミュニケーション能力の育成が課題である。

・自分には、よいところがあると思っている児童の割合が全国平均を下回っている。道徳や学級活動を中心として、一人一人のよさに気付かせ、自尊心や自己有用感を高めていかねばならない。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組 ※「◎」は現在取り組んでいること「○」は今後取り組むこと「・」は事例

◎学力向上のための特設時間の充実

- ・朝自習(毎週水曜日)に「ひまわりタイム」として、音読・暗唱ブック「ひまわり」を活用した全校一斉音読や発音練習の継続実施。
- ・朝自習(毎週火曜日と金曜日)の「がんばりタイム」の時間を言語や数量や図形についての知識・理解・技能の習得時間とし、全校一斉に「漢字の読み・書きや言葉の意味調べ」及び「計算練習等」などの活動をする。

◎算数科に絞った校内研究の実施。

- ・本校研究主題を「基礎・基本の定着を図り、数学的な思考力・表現力を高める算数科学習指導の研究～「見通しをもつ」「自分の考えを説明する」「振り返る」活動の指導の工夫を通して～」とし、これまで、本校が培ってきた言語活動をいかしながら、表現力の定着を中心に研究に取り組む。

◎「書く」ことの習慣化

- ・『短くさつと書く』を意識させ、めあてやまとめ、ふりかえりを素早く書けるようにする。

- ・学習中のノート指導を大切にす。

◎過去問題、アシストシート(練習問題)等の活用

- ・アシストシートを家庭学習や朝自習等に活用し、答え合わせ・解説・やり直しを行うことによって、基礎基本の徹底を図る。

- ・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題等を活用

○国語辞典をいつも使う環境づくり

- ・3年生以上の学年では、国語辞典の使用を習慣化させるため、教室で国語辞典を使用したいときにすぐに使用できるよう環境を整え、国語辞典を各教科においても積極的に活用できるようにする。

○「話し合う活動」を増やす取組

- ・朝の会や帰りの会等で、スピーチの時間を設ける。

- ・自分の考えを伝え合ったり、説明したりする活動を学習の中に位置付ける。(交流学習やグループ学習、全体への説明など)

- ・学年の発達の段階に応じて、学級会の充実を図る。

○「総合的な学習の時間」の見直しと活動の充実を図る。

- ・探求的な学習活動になるよう年間指導計画の見直しと学習展開の工夫を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組 ※「◎」は現在取り組んでいること「○」は今後取り組むこと「・」は事例

◎家庭学習のスタンダード化

- ・家庭学習の自主的な取組ができるように、自学の仕方を指導する。
- ・家庭学習時間の設定(低・中・高ごと)・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用

◎全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知

- ・学校便りや学校HPで家庭へ周知

○情報モラルやマナーの向上にむけての指導や啓発活動の実践

- ・ICTサポーターを活用して、学年の発達の段階に応じた情報モラル授業を全学年実施し、情報モラルの向上を図る。
- ・学校便りや学年通信、懇談会等での機会を利用して、情報モラル・ネチケツ向上の啓発活動を行う。